

地域における課題解決に向けた取組

～適切な更新確保に向けた普及～

上川中部森林管理署

【現状・課題・目的】

森林資源の積極的な循環利用が進み、伐採後における更新面積は益々増加していくことが想定される中、地域の森林・林業関係者の更なる造林・保育コストの縮減に向けた意識醸成がより必要となっています。

このため、造林作業の省力化を地域の課題とし、主伐・再造林の循環を確実なものとするを目的としています。

【これまでの取り組みや成果】

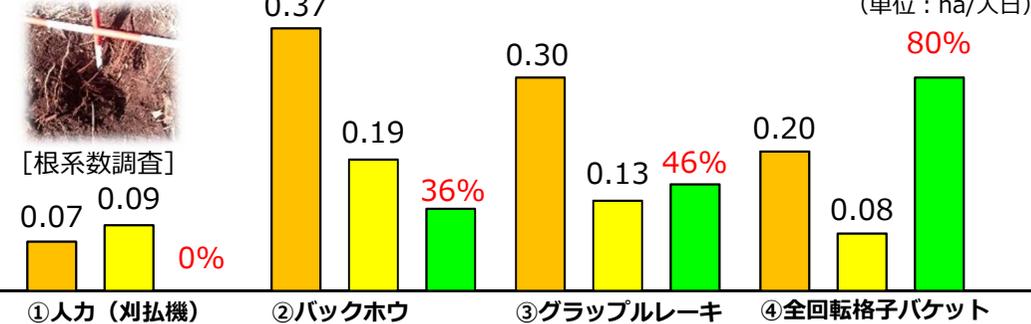
- 一貫作業システムの導入・コンテナ苗を活用した低密度植栽
 - 伐採から造林までの一貫作業によるコストの縮減に向けての意識醸成
 - コンテナ苗を活用した低密度植栽による保育コストの縮減に向けての意識醸成
 - コンテナ苗の植栽体験
- 下刈期間の見直し（省略のタイミング）
 - 下刈期間（年数・回数）の適切な見極め方の普及等による造林・育林コストの縮減への意識醸成

【平成30年度の取組内容・結果】

○ 多様な地拵方法における作業工程等を比較

伐採から地拵・植付までの一貫作業システムにより、主伐後に次の4通りの手段で地拵を実施し、それぞれの作業効率や地拵後の根系除去率を比較しました。結果は、作業効率に着目するとバックホウが最も優れており、下刈等今後の保育に影響するササ等の根系除去に着目すると全回転格子バケットが最も優れていました。

■ 刈幅3.0mの作業工程 ■ 刈幅1.5mの作業工程 ■ 根系除去率（※）
（単位：ha/人日）



※各手段で地拵後に30×30×50cmの穴を複数掘り、その内部に残存する根系数を調査。人力(刈払機)区分を根系が除去されなかったもの(0%)として他の区分を算出。

○ 現地検討会の開催

近隣市町村、森林組合等事業体、指導林家、研究機関など100名以上が一同に会する中、当署から上記調査結果を説明し、大型機械地拵の有効性を紹介するとともに保有機械等地域の実情に合った下刈省略が期待できる地拵方法について提案しました。



現地検討会の開催状況

【今後の取り組みで目指すところ】

次年度以降、大型機械を活用した地拵の継続的な効果として、それぞれの区分において、下層植生の回復状況を中心にモニタリングし、下刈省略の可能性を探り、地域に提案および普及していくことを検討しています。

○ 現地検討会の反応

- 内容がわかりやすい。
- 様々な機械の実演が良かった。
- 各区分の表土の状態を実際に確認できた。
- 植栽後の苗木の活着・成長、下層植生の回復について継続調査をしてほしい。
- 多くの参加者との情報交換が可能で良い刺激になった。

等のご意見があり、

本検討会が、地域関係者の造林・保育コスト縮減を考える“良いきっかけ”になったのではないかと考えています。

【今後の目標】 地域の造林・保育に係る省力化およびコスト縮減